

## 安全データシート

作成日・改定日

2017年12月7日

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

TPプライマー

会社名  
担当部門

東邦化成工業株式会社  
技術部

住所

〒171-0033  
東京都豊島区高田2-1-12

電話番号

03-3988-3366

FAX番号

03-3985-6975

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体

区分2

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

区分2B

生殖毒性

区分1A

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

区分3(麻酔作用、  
気道刺激性)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

区分1(肝臓)

区分2(中枢神経系)

\* 記載が無い危険有害性は、区分外、分類対象外、又は分類できないである。

#### ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語



危険





**危険有害性情報**

引火性の高い液体及び蒸気。  
眼刺激。  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。  
呼吸器への刺激のおそれ。  
眠気又はめまいのおそれ。  
長期又は反復ばく露による肝臓、中枢神経系の障害。

**注意書き**

**[安全対策]**

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。  
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
環境への放出を避けること。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
静電気放電や火花による引火を防止すること。

**[応急処置]**

**吸入した場合**

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い場合は医師の診断、手当てを受けること。

**皮膚(又は毛髪)に付着した場合**

直ちに汚染された保護衣を脱ぎ、多量の水と石鹼で洗うこと。  
保護衣を再使用する場合には洗濯をすること。  
皮膚刺激がある場合は医師の診断、手当てを受けること。

**眼に入った場合**

水で数分間、注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。  
眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

**飲み込んだ場合**

直ちに医師の診断、手当を受けること、無理に吐かせないこと。

**ばく露又はその懸念がある場合**

医師の診断、手当を受けること。

**[保管]**

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

**[廃棄]**

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物  
処理業者に業務委託すること。

**その他危険有害性情報**

水及び酸、アルカリ化合物と穏やかに反応(加水分解)して、メタ  
ノールを生成する。



### 3. 組成・成分情報

単一物質、混合物の区別

混合物

成分	含有量(%)	化審法	CAS No.
変性シリコーン	5~10	-	-
エタノール	95~100	(2)-202	64-17-5

### 4. 応急処置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。  
皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗浄すること。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合

水で数分間、注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。  
眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。  
気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤

情報なし

火災時の特定の危険有害性

火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

特定の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護  
(保護具等)

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項 保護具及び緊急時措置

関係者以外の立入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。  
密閉された場所に立入る前に換気する。

### 環境に対する注意事項

河川等に排出され環境へ影響を起こさないように注意する。

### 回収、中和

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、覆って密閉できる空容器に回収する。また、吸収したものを集めるときは清潔な帯電防止工具を用いる。  
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

### 二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱及び保管上の注意

### [取扱]

#### 技術的な対策 (取扱者のばく露防止、火災爆発の防止など)

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

### 局所排気・全体換気

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

### 安全取扱い注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
静電気の放電防止策を施す。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
眼や皮膚への接触、吸入を避けること。  
飲み込まないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
環境への放出を避けること。

### 接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照



[保管]

技術的対策

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管条件

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙容器は直射日光や火気を避け、密閉して換気の良い冷暗所で施錠して保管すること。

混触危険物質

「10. 安定性及び反応性」を参照

## 8. ばく露防止及び保護措置

[エタノール]

管理濃度

設定されていない

許容濃度

(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産業衛生学会

設定されていない

ACGIH

1000ppm

設備対策

静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
防爆型の全体及び局所排気型換気装置を設置すること。  
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。

[保護具]

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。  
保護眼鏡(普通眼鏡型・側板付き普通眼鏡型・ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

適切な顔面用の保護具を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	無色透明液体
臭い	特徴的な臭気
pH	データなし
沸点	78.3°C(エタノール)
引火点	13°C(エタノール)
爆発範囲	下限 3.3 vol%、上限 19.0 vol%(エタノール)
蒸気圧	6.6kPa/25°C(エタノール)
蒸気密度(空気 = 1)	1.6(エタノール)
比重(密度)	0.81(25°C)
溶解度	水に可溶
オクタノール/水分配係数	該当しない
自然発火温度	>200°C
分解温度	データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱いにおいては安定である。
反応性	水及び酸、アルカリ化合物と穏やかに反応する。
危険有害反応可能性	危険な重合は起こらない。
避けるべき条件	特になし。
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害な分解生成物	水及び酸、アルカリ化合物と穏やかに反応(加水分解)して、メタノール。 加熱又は燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、二酸化珪素、窒素酸化物、ホルムアルデヒド。 不完全燃焼により、微量の炭素化合物。

## 11. 有害性情報

[エタノール]

急性毒性	経口 ギニアピッグ	LD <sub>50</sub> 5600mg/kg
	経口 マウス	LD <sub>50</sub> 3450mg/kg
	経口 ラット	LD <sub>50</sub> 6200mg/kg
	吸入 マウス	LC <sub>50</sub> 39mg/l(4h)
	吸入 ラット	LC <sub>50</sub> 20000ppm(10h)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	眼刺激。	
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。	
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	気道刺激性、麻酔作用。	
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	長期又は反復ばく露により、肝臓、中枢神経系に影響を与える可能性がある。	

## 12. 環境影響情報

[エタノール]

魚類 ファットヘッドミノー LC<sub>50</sub> >100mg/l (96h)  
甲殻類 オオミジンコ EC<sub>50</sub> 7.7~11.2mg/l (48h)

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

## 14. 輸送上の注意

<b>国際規制</b>	海上規制情報:IMDGの規定に従う 航空規制情報:IATAの規定に従う 国連番号:1133 国連分類:クラス3 容器等級:Ⅱ 海洋汚染物質:該当しない
<b>国内規制</b>	国内輸送については15章の規制に従うこと。

## 15. 適用法令

### [エタノール]

<b>労働安全衛生法</b>	危険物・引火性の物 通知対象物質 表示対象物質
<b>消防法</b>	第四類第一石油類(水溶性液体) 危険等級Ⅱ
<b>船舶安全法</b>	引火性液体類
<b>航空法</b>	引火性液体類

## 16. その他の情報

### 注意

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。  
記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保障するものではありませんので、取扱いには十分な注意をお願いします。